巻頭特集
日本の伝統工芸に親しむ

可愛くて美しい「つまみ細工」の世界

最近注目のハンドメイドクラフトの一つ、「つまみ細工」。大治町でつまみ細工のスクールをしている「月華桜」にその魅力、おもしろさを教えてもらった。

正絹羽二重の白梅は
舞妓さんの勝山かんざし

七五三にぴったり

奥深い日本の伝統工芸 基本技法は「丸つまみ」と「剣つまみ」の2つ

舞妓さんのかんざしから枝垂桜のように垂れ下がる花飾りに覚えがあるだろう。あの花飾りは、日本の伝統工芸「つまみ細工」により作られているもの。正方形の小さな布を折ったりつまんだりして組み合わせ、花や鳥などをモチーフにし、くしやかんざしを華やかに彩る「つまみ細工」。舞妓さんの髪飾りだけでなく、七五三や成人式、結婚式などの晴れの日の髪飾りの他、最近では様々なアクセサリーや装飾雑貨品としても親しまれるようになっている。

東京都指定伝統工芸「江戸つまみ簪（かんざし）」はつまみ細工を由来とする。「つまみ細工が始まったのは京都とか江戸城の大奥とか諸説あるようですが、江戸時代の人たちが着物の端布で楽しんでいた小物づくりの技法が、次第に手芸として一般に広まっていきました」と教えてくれたのは、つまみ細工をはじめボディジュエリーやスワロフスキーデコ等のオーダー販売・スクールを手掛ける「月華桜」の藤野ルミさん（以下ルミ先生）。

つまみ細工の基本となる技法は、丸い形の花びらを作る「丸つまみ」と、尖った形の花びらを作る「剣つまみ」の2つだけ。「二つの作品を丸つまみだけで構成することは充分可能です。どのような花を作るかによってつまみ技法をちょっと変えたり、布の種類や大きさ、色合いも工夫したりして作っていくつまみ細工は、とても奥が深い世界でもあります。私自身もそうですが、そこに面白さがあるとおっしゃる生徒さんも多いですよ」と話す。

「月華桜」の藤野ルミさん

ルミ先生が、奥深いつまみ細工の世界に足を踏み入れたのは、10年以上前のこと。「上の娘の十三参りの着物を用意していたときに、つまみ細工のかんざしを偶然見かけて。すごく綺麗で繊細で、即購入しました（笑）。その後、つまみ細工は自分の手で作れるものであると知り、子どもの頃から手芸が好きだったこともあって、早速行動に移した。当時、つまみ細工の教室は全く無く、書店で唯一見つけたつまみ細工職人による教材本を頼りに、独学で練習を始めた。

つまみ細工には接着剤に糊とボンドを使う、2つの製法がある。「糊を使う方はつまみ細工職人によって受け継がれてきた伝統的な製法で、正絹羽二重をはじめとする絹の薄い布を使う作品に向いています。ボンドはレーヨン素材のちりめんを主に使うつまみ細工に向いていて、糊に比べて手軽に楽しめるためより身近な手芸として広まっています」とルミ先生。

職人の教材本を頼りに、糊製法でスタートして数年間。ひたすら練習を積み、ボンドつまみの認定講師資格を取得するなど、貪欲につまみ細工を探求していった。そのうちに、人にあげてもいいかなと思える作品が作れるまでになり、友人などにプレゼントしていたら、「教えてほしい」と言われ、教室を始めることに。4年前のことだ。

「当初はボンドつまみを教えていたのですが、生徒さんと向き合うと、ちゃんと教えるためにも糊つまみを職人さんからしっかり学びたいと思うようになりました」とルミ先生。すぐに関東にいる二人の職人さんの元へ、月に1回ずつ通い始めた。宮花簪學校の専修クラスを終了するなど、糊つまみの多くを習得したが、学びはずっと続けている。

つまみ細工職人は着物文化の衰退とともに減少し、今では全国に関東圏を中心に10人ほどしかいないそうだ。西尾張エリアには職人はおろか、職人に習っている人も少ないという。その中でルミ先生の教室は、職人直伝の糊製法も知れるとあって、本格的につまみ細工を学びたい人たちも多く通っている。

「糊」or「ボンド」で作りたいものを作る 無心になれ、ストレス発散にも

月華桜でのつまみ細工レッスンは、月に10回ほど。完全予約制で開催月の前月末に実施日程が公開され、好みの日時をいくつでも予約できる。レッスン1回の時間は約3時間。料金は糊レッスンが4,000円、ボンドレッスンが3,500円。正絹羽二重やちりめんといった布をはじめ糊やボンド、その他の材料・資材も基本的に材料費に含まれている。つまみ細工専用のピンセット2本とお手拭きを持っていけば受講できるが、初回は手ぶらでOK。ピンセットも通うことを決心するまでは、貸し出し対応している。

レッスンは各自の作りたいものに合わせた、それぞれの内容で進むので、自分のペースで通えるのが嬉しい。1レッスンの人数枠は上限4名まで。友達数人で体験レッスンなどの申し込みもあるという。また、出張レッスンも受付けている（詳細要相談）。

教室を始めた頃、生徒はわずか1人だったが、現在、通っているのは40人弱。そのうちの4人がボンドつまみの講師養成コース修了し、今でもレッスンに通い続けている。

生徒は40代～50代が中心で、「娘の成人式の晴れ着に合わせて」という方が多いという。初心者に成人式用の髪飾りはハードルが高いイメージだが「全くの初心者でも、6～7回のレッスンで完成させることもできますよ」とルミ先生。経験者であれば4～5回のレッスンで仕上がるといい、小花は自分で作り、メインは先生にオーダーする方もいるそうだ。

教室を始めた頃作った、
娘さんの成人式の髪飾り

古布（昔の着物）の花かんざし

「笑顔の絶えない、雑談ありの楽しいレッスンを、生徒さんのおかげでさせてもらっています」とにこやかに話すルミ先生のレッスンは、「楽しく学べる」と評判。それでも「どうせなら上手くなってもらいたい」という思いも強く持っているので、一人ひとりの能力をみながら「ちょっと難しいことに取り組んでもらい、学ぶ側が知りたいことを可能な限り教えるレッスン」を心がけているという。

また、元々不器用で多くの失敗を繰り返してきたというルミ先生。「でも、それが強みになっています。生徒さんがつまずいた時、どうしてできないのかがわかるので。個々に合ったアドバイスを伝えていますから、格段に上手になるのも早いと思いますよ」と自信ものぞかせる。

小さな布一枚から制作が始まるつまみ細工。「ピンセットでちまちまと同じ作業を何度も繰り返しますが、だからこそ無心になれて、それがストレス発散にもつながります。どれだけやっても難しさを感じる時がありますし、習いに行くたびに発見もあって。つまみ細工、ほんとに奥が深い世界です」と話すルミ先生。

レッスンで技術を伝授するだけでなく、古典的なものから現代的なものまで伝統の良さを反映させつつアレンジを加えた魅力的な作品を数々制作している。晴れの日の装いに、毎日のおしゃれに、暮らしの彩りに――オーダー販売のほかに、名古屋城の金シャチ横丁で毎月第3土・日に開催される「尾張徳川華の市」に出店することもあるので、先生の作品を間近にしてみるのもいい。教室見学も対応しているので、興味のある方はSNSのダイレクトメールから気軽にお問い合わせを。

胡蝶蘭。技法、製法、使う布によってイメージも変わる

「月華桜」の
制作&教室スペースにて

ウエディングブーケにも

つまみ細工とモール細工を
組み合わせて洋装用に

お問い合わせは
こちらから♪

月華桜
げっかざくら
〔TEL〕090-3308-4995
※レッスン中など出られない時あり

〔ホームページ〕　〔Instagram〕